慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「特集」に寄せて
Sub Title	
Author	山腰, 修三(Yamakoshi, Shuzo)
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2014
Jtitle	メディア・コミュニケーション : 慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media communications research). No.64 (2014. 3) ,p.3- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20140300-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「特集」に寄せて

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所准教授
山腰　修三

マス・コミュニケーション論やメディア論の理論研究はその全体像や「流れ」を捉えることが難しくなりつつある。かつての効果論のような参照点、準拠点となる「中心」がゆらぎ、理論研究の細分化が進展してきたことに加え、有力なオルタナティブとして注目を集めたカルチュラル・スタディーズもまた、その勢いを失ってきたことが背景にある。

こうした状況に対し、本特集は政治理論や社会理論におけるキーワードや概念を手がかりに、メディアやマス・コミュニケーションの理論を捉えなおすことを目的としている。

烏谷論文は、トッド・ギトリンの議論を手がかりにメディア・フレーム概念の批判的再検討を行っている。そしてその知見を「メディアの権力」の分析にどのように応用することができるのかを論じている。

津田論文は、ナショナリズム概念や言説的制度論を参照しつつ、社会政策の形成過程においてナショナル・アイデンティティがいかなる役割を果たしているのかを検討し、それを踏まえてマス・メディアが政策形成過程に果たす機能を論じている。

山腰論文は批判的コミュニケーション論の新たな分析視座を検討し、ニック・クドリーの「声」や「聴くこと」という概念の応用可能性を論じている。

山口論文は、社会構築主義や現象学的社会学に依拠しつつ「ジャーナリズム」の構築過程について論じている。そしてニクラス・ルーマンの議論を参照しつつ、「信頼」概念がそのための手がかりとなることを提示している。

平井論文は、「ファンダム」概念を手がかりに、従来の情報社会論やカルチュラル・スタディーズとは異なる視点から今日のメディア環境における新たな連帯、社会参加、公共性について検討を行っている。

三谷論文はウォルター・リップマンの著作を追いながら外交政策とメディア、世論の関係性を捉える新たな視点について検討している。そしてリップマンの『世論』がそのための重要な参照点となることを論じている。

新嶋論文はマイノリティのメディア表象をめぐるエスニック・スタディーズの問題点を指摘し、スチュアート・ホールの表象研究や言説概念が持つ意義を論じている。

言うまでもなく、理論を通じて何を説明できるのかが重要である。現在、研究所のプロジェクトの一つとして「原子力政策報道とジャーナリズム」が進行中である。本特集で得られた知見をプロジェクトの問題関心に還元することを今後の課題としたい。